837
36
4

夫木和歌抄 廿七
三

雑 六

全三十六冊

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

清水濱臣藏書

曹山文庫

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

837-4

帝国図書館蔵書

夫木和歌抄　第三十三

雜部廿

海

江

汀

洲

浦

濱

根岸信蔵之書印

昭和八年　帝国図書館

下文空佐師
君々代い浪よるとふ
君の御の弥よまり
する万とそ

帝国図書館蔵書

海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神仙傳云麻姑謂王方平曰自接待以来東海三變為桑田向到蓬萊又清浅六帖三舟方平曰東海行復五雜二揚塵矣

万代

なかきのみくしたるうたとて

桑田

ふる郷

中納言家持

巻十九

四一六〇

ふるさとの新々の清き流の

来イ

一条大路家成屋敷

万六

きこゆ あををとめ

ひろ

百七 かちの渡りほのうち出でみれば

あをうなひ

奈呉の山乃尾しるし雪の松山

紙魚食虫

万六

万玉

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

万代

あををとめやまとをとめ

彩六三

ふるさとの

せ新六

ふりにてをみてかへりけむ

信実朝臣

紙魚食虫

万代

ふるさとやうつろふ花のあさ

なる心

ゆきの岡の春

ゆきの岡

ふるさとやうつろふ花のあさ

なる心

ゆきの岡の春

万代

あををとめやまとをとめ

彩六三

ふるさとの

せ新六

ふりにてをみてかへりけむ

信実朝臣

紙魚食虫

万代

そらこと承久二年四季の百首たてまつりし時
あれてもなほる色そふ秋萩の露の玉ゆふ夕暮の空
弘安元年百首　従九条関白
旅人のうきふしかずをわけそめてなほ行末の遠き浦浦
拾遺百首中　寄河海
和泉のさと月をひさしき白波のたえぬ流れの末ぞ久しき
禁園社百首　川
川はみなながれ入てや海なるらむ猶あまりある和泉なる
名所歌
わが袖の海とやいはむ浦の面のさすがに広き秋の夕暮
寄海
漕出でて跡なき浪のうきふねのゆくへもしらぬ八重の潮風

百首歌
住吉の松のあなたもかすみこめ霞の関の春の曙
寄海
さみだれのひくき汐路のいつしかに深き思ひのかさなるらむ
遠保四年内裏歌合
漕出でて跡なき浪のいろいろのあやをぞ見する春の曙
従二位家隆卿
漕渡る跡なきうけてそ悔しき浪のいろいろのあやをぞ見する春の曙
後京極摂政
漕渡る舟路も遠き沖つ風吹くるにつけて秋の夜の月

又十首は二条
桜をよし湊の海よ満おぬと
家集意言の中
意すれい湊の海よそよひて
心前二
光明寺百首会板改
つくるよ
源仲正
民部々丞家
初恋
知らす湊の海よろこもの
初恋
今ろ湊の海よそひさしめろ
藤原為忠朝臣
後二位藤原為
家集山ろ海
意さゆろみさりの松系路ろ
同
海殿前院有
うするぬうさめろさの浜ろ
百首の法乃海
法の海浜乃りてもさろぬ世よ
寄人交寸文書の合ろ
為経朝臣
いろろ白のろさ世の浜よさまひて
新古今竟宴おこうろ
浜亭経房改
ろさ鴎や去和ろさの海をろて
ひろひおみそれよろ

四条中納言

ものおもひするよりこそ涙の海をばたえてひろうらめ

雑四 中納言

和泉はいかなるもとをふの海のこうらうしてあまのたくまん

波よせぬ雲の海ハ雲もなれてつきのかつらもさやけかるらん

雲の海　百首の合

あふことを雲の海にもなれてつきのかつらもさやけかるらん

男山ふもとのさとり代々のすみかをうつす雲の海よ

洞院摂政家百首の海　藻塩こがるる

みるめこそよるかたもなけれ藻塩こがるるあまのたくひは

よるかたもなくこがるるあまの藻塩火

大海の浪もおさまるなぎぬとや八洲のうちに白雲

多武峯参詣侍りける時

風ふけば松のあらしもたえぬとや心をすまし聞くべかるらん

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

続紀七神護二年七月己卯敘位従七位上昆解宮成得似自臘者以献言曰是丹波国天田郡草浪山所出也

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

朝光の名をかくせう
家集ニ朝光贈答の事ありと覚へ

百十五　伊勢海

伊勢の海よるさへ見えぬ浦の秋
　　月
　　郡ふ和

百十六　伊勢のうみ

伊勢のうみ千秋をこゆるよすみ
　　家集　人のおこせて
　　　　　枕草子在原業平朝臣
後撰恋五　在原業平朝臣
いそのうえにあさ夫婦
業平集
　　郡ふ和

百十七　伊勢

伊勢のうみの浪を清くすむ
続後拾賀
　　月かげ
　　小大君

百十八　家集无
　　百代草
いその浦のあさ霧の波のつゝ
新千恋五　朝光
　　れなつさひぬと
　　もしかし

遠保三年女五百首　前中納言匡房

百十九　伊勢

伊勢のうみの玉ゝもなほよさりに
　　寄貝恋
　　衣笠内大臣

百廿　伊勢

いその浦のあさみどりなる
　　朝光
　　家集二

家集无
百代草

伊勢の海そこひもしらぬ教の法
　　寄海述懐
　　源師光

百廿一　伊勢

伊勢の海浪よさしのぼる秋の夜の
　　月は松風
　　ふきはらふ
　　通宗卿

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

ふくいりきいるこの海の神津島
長奇

秋おくれ雲の秋のまふそらあらしよふりぬひつるとおもふに
六帖

ももちふねいるこの海の白浪のよるはすずしくなりにけるかも
拾遺集

うら波のよるいるこの海よあまのたくなはしらすてあさ漕ぐらしも
長歌 右見の海

津のさきふる右見むとこのころさくかつのさきふくかぜのさむけく
ふるゆきのふる若狭よそ思ふ
光明皇后 右見の海

津のさきふる右見のうこれもうらなみのよるとはなしに
海

敷香ふるこの海をいそはいこの海よりおひぬふる白玉人のひろはぬ
相模

玉藻刈るこの海よりおひぬふる白玉人のひろはぬ
右兵衛督 藤原朝臣 その一首浜浦霞 その一首

伊豆の海や奥津海苔のあさりてし霞
伊豆国司

漢人有知

万志
伊豆のうみふくう白浪のよるうもそけるん抱えまつて
笠松海を 松浜 強会太夫
五そうけるうの海いけきあれや十二谷 うけて欤
三嶋社十首山月
おそうけるねの山乃峯かるくもの
家をあ乃中 ときの海
ときのうらにおうへてあそひ
久安百首
ひをそのそ出なのそひき
源三位
宝仁法師

上文 見る世そともしらぬ
万代 おそう代
おそう代い浪よりうらときめうの
ちぬのうち陳如 摂津
北条ハ ちぬのうち浪への少松原うて
源ふ知
至 ちぬの海乃浪への少松相みうそまれ
寛政元年女院入門の
海 伊勢又紀伊
西国ら入ると
うつりてるけるの代をおもひ
家集 芸予の中
永き日の来風乃ふく縄おりへてらひろのうちにうるこ
注二信濃乃

鄙石知(漏字アリ)

万七 秋風にそこ(万下同)なびく青すすきこの頃の朝(そこ)
万十一(漏字アリ)同 夕霧の隠(同)れる小島鳴く鶴(をもよまくか)
大海のかたより(同)の海よいたく(同)な吹きそ沖つ白波

家集

浪あらきかたより(同)の海乙女らに玉藻刈らせて見む

光俊朝臣

秋ふかみ(万下同)浦こぐ舟の音ふけて月にぞ(くぼ)近き沖つ島守

万十一月九日鹿島社を(漏字アリ)ら
て番匠(漏字アリ)ども(漏字アリ)
船をそろへて漕つれ(漏字アリ)
まつらに狩する男ども弁なき事ども言ひて笑ひ
日も暮れぬ程に(漏字アリ)
ゆりて(漏字アリ)
天仁元年大嘗会悠紀方風俗歌 左近
おの中納言通房卿

家集

まこてうらゐ(たこ)
巻七五浦重出
秋霧に(漏字アリ)
西行上人

家集中冊ね

妙恵

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

同

[illegible]のうこよ浴るそれ打つ母
同 よさ
あこの入海霧
月詣集
北五浦 中納言師仲
あるめそもなひろ
れさこの浦の
このうちのいものあ
ろく

[illegible]
同
家集 大納言経信
神の前よ[illegible]
くとあり[illegible]
母なり[illegible]
ろとよなれ

万代
新拾恋二
ようさの海浦のきよさとそ
弘安え年百首
[illegible]

[illegible]
同
[illegible]
[illegible]
[illegible]

紀の国をもの共ちこそ

かくしあらなも

家集 万七
はなみのー
万七
万四
新古恋四
続後拾五
つ集
の

垂水百首 伊勢

はるの海のまん中にたつ波のうねりくるのは
風にぞありける

江邊百首

遠近の舟よりそへる浦のうちは
遠き江までの名所なりけり

潟をてらす月の海とぞ見えわたる
ありあけの浦

郭公浦

ほととぎす浦のこゑこそ聞えけれ
ありその海の波のまにまに

布引の滝

布引の滝にて雑の心

大井河

百二十七

いつもうつりてはまをあらうらなみの
まがひぬさとも人の見るらん

神のいがきもひさしく荒れて社頭荒廃
神のさかきは花ぞまがへる

湖上

鏡中必住の河布引の瀧の糸
水上ながき湖をこそ知れ

中納言家

百二十七

久しくれてすゝきのいとゞ
秋ふかきかれの花のをみなへし
書よみてすゞりのふたに入れて
提者 そこ あるまじ
歌も和も有。

五十七
ふその海　小あつ[illegible]

五十六
[illegible]

安元二年[illegible]

遠江守[illegible]

[illegible]

[illegible]

百七 みえとはやらもろう
もろの海つらはやおうりつうふ

百七

百八 同
もろの海泊やそあり年魚の浦ひさ
西海二年一百首

百二
嶺かなもろの海のおきみけ
家集 陸奥 信中

百三 浦ふ
ひなくそわうの海の稚風
都かな 海辺 人こう

百四 中納

百五 浦そ
時は風おおくもろあうこのうち
百六 長哥
見もこよ多つそれあこの海のあ
百七 同 かうのうみ末詠
百十二 同
あうなの海つきあさまおういひて
建保二年内裏千首

百十三 注一位家隆
浦めるうまう月氷をいうつう
遠忠七年乳母千首

百十四 源仲章
月の氷しおなのもうすすめ
東よりうの夜うそ

海もりぬともひ乱まし　あしの海の

山寺海辺眺望　前権少僧都

重てもなをもりぬ山寺に　こゝろもあくる浪の

雲くもへさりぬ松のあま海とそこゝろ

三綱

六位以下

紀の海よものもくあまのあさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元輔哥也初名魚味時之歌恵慶不可詠事明白歌

すの海はあさひをうけて濃くれの
春の朝ぼらけ霞める
元輔集 おもつあふ
清少納言乃海部をとめもくみてやあ
遠河恋
万五 すみの江海をとめに袖つゆ
家集
拾六 雲ゐまでうちよする波の
原元二年毎日一首中 伝流
そへの海のそこの里人
すそのあま

すへの海のそこの里人
東うすへの人海のいろまでそ
百首哥
すへのとまやに波のかけてあらめ
百首哥
久安百首
すへの海は水すまして秋の月
千五百番哥合
清輔朝臣
水つらそかちわたりする
すへの海

寛元元年女院入内
光明峯寺入道殿改
鳴の海に来らぬ浪ぞなかりける千里よ流る冬のよの月
康元二年毎月重陽民戸之事
いかでかは鳴の名もるべきそれてうらみむ沖津島山
遠久七年百首歌奉中納言家
松ならぬ秋の松の松にのみ有りてかひなき秋の幸水月
文永元年七月宇治川幸
鳴の海やまもりてこそ守るべき秋の月みく波ぞよせ来る
墨俣川合戦百首歌
鳴の海の浪のうへまで見渡せば秋の井よ海ぞつゞきて
永久二年四季百首 法二位家階
さく浪や雪の藤よりあらはれて鳴のうへ吹く風ぞ残れる
久安百首中 寄波方恋
入海のうへへの浪のうきまくら枕のみこそ浪よおくらし
乾元元年仙洞合歌
さく女山あさくしも見れかく風松のみりあけてはそなき
家集永仁元年冬中晩立
法眼幸の融

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いかゝへも名代のこゝ地こそすれ

従三位
海辺にたのこゝろ鳴のあはれそへ
家集水辺秋深

ゆく雁の数の未うけのまに井よりの
階祐イ

同題三首の中

河鹿の松のこゑこゑねたてゝ寺ふかき
郭公初 同題

草花こゝろ〳〵といひまつ代
家集二首中納言定明

ちよ代をいのるおもてすむ鶴ハいとゞ
郭公初 侍中納言

ゆく〳〵こゑ〳〵といふひまもなく
家集 侍従

志賀の山こゑ鴈のはつかりがねも
麻績王

空野の命をおもふ浪まくらかりく
幸二行勅使国々歌奉る人々

五
今ゆくすゑのこゑ〳〵濱風ぞふく
従二位家隆

為家々集の百首

新拾遺　右附之通見
とまりするをまつ
いその浪枕ちへに
ふるあさのうら風

風雅中

題しらず　源二位宰相

ねもころに雨の松の梢より雲の浪ある夕暮の空

これや三年九月歌仙の一座の一会なるべき

寄水恋

信実朝臣

あふくまを雨の秋のおもかげよ涙の浪の底の月影

宝治元年十禅師宮合歓中納言

方三

いかにのもふるさくら思ひ出ん春の夜の夢

信実朝臣

わし潟迷門とくさけと芦鹿の人慮

弘長元年十禅師宮合歓中納言

方三

いかにのもふるさくら思ひ出ん春の夜の夢

信実朝臣

静女新作百首　源二位朝臣

名所郭公

ほとゝきす鳴つる方をながむれは唯有明の月ぞのこれる

中納言のみこの家歌合

久恋百首

かくこのみ思ひ侘ぬる身なれはあるにもあらぬ世にこそ有けれ

寄海恋

ふりすてゝ浪のそこなるうらみをもしらぬ人こそ恨めしけれ

雑

現存六

かくこのみうきものさのおもひやるしるへも波のうきふしの中

文永二年中宮の御方の御歌合

かさゆひのの

山のはのいつしかすみそめぬらん明ゆく空のうすくもの色

和名抄 周防国郡名 佐波 波音

千首哥

秋の夜のあくるひのきりぎりすの哥

柿本朝臣人麿

ね九条内大臣

かさ山のあくるひのきりぎりすなく

かさ山の松のこずえやあくるらん

あくるたびなく松のきりぎりす

雑哥

かさ山の松のこずえのきりぎりす

なく音ききてや秋はくるらん

柿本朝臣人麿

秋の夜のあくるひのきりぎりすの哥

千首哥

秋の夜のあくるひのきりぎりすなく

鳴の巻よりつゞきこゆる浪の花

続古雑中

かち渡の松よりきこゆる浪の花

鳴門より八重さし出る浪の花

雑哥

和泉国

住吉の松よりつゞく浪の花

住吉の松よりつゞく

たけ高きよこさく法しくらゐて

遠き七年別れ

注二信行家

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

任吉のさ一の娘れ
人なく〳〵とふ寄と
なく〳〵さると写一
誤て二首と二首
みせそこの

二ゆき
六年性

三九 みなく〳〵いくよう〳〵そそ一ものをおこ
ゆきかへる人のおほかる道にしあれば
なほ〳〵いくよ〳〵そそ一ものをおこ
ゆきかへる人のおほかる道にしあれば

この川の源七集
続古雑中 改上是則作

万九 あふ坂のせ水の流のたえずして
またこの川の名はつきなくに

人麿

遠保三年九月百首歌奉合

恋歌

三四 あふ坂の関の清水にかげ見えて
いまやひくらむ望月の駒

順 源順

遠保三年九月百首歌奉合

秋歌

三五 さ夜ふけて衣打つなり
高砧 いづくの里に
秋風ぞ吹く

中納言家持

万十七 ほとゝぎすいつかこの夜をたちぬらむ
まだうち出でつる声のみして

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

家集 摂津 むこのま

春ごとの名所を分ていもこの為月をそうつ宿のうてな

為 むろのやしま 千野

続古志 卜部もゝしろの風さよふる猿

為家一中

やそしまの むろのやしまの名こそ多うつてもしろの八重も人こふる和

なさ浦

摂津 むろのうらの世ごとのなさ浦もそれなれぬれやあらぬ松風

隆祐朝臣

家集 為家 摂津又 紀伊 家々乃家

浪ぢなき松の梢さもろくへよりつゝ吉のうら風

中務卿宮 みこ漁舎

春ごとの人 春ごとの

春ごとにすてゝや見ゆる山人の衣ぬきの初狩

家集 為家 摂津又 紀伊

遠仁元年三月廿日 廿九

遠仁元年三月廿日内裏歌合

摂津 摂津

摂津 摂津

摂津 摂津

五首

[illegible]

[illegible]

五十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘安元年百首 陸奥

雲ゐまで松ふきかよふ嵐いろの峯の木ずゑも秋ぞ
遠保三年名所百首

宝治二年百首 陸奥

すむつるの巻ゐの千とせ君が代の数にもがなと
思ふこころは

百首歌のつゐで

あふ人の鳴きてすぐるもものこゑもうき音にのみ
聞くぞわびしき

拾遺のこゝろ

思ふらんその名ばかりぞ松風の
通後年

康元二年毎日百首中 民部卿家

春霞たなびく山の桜花ちりのこりたる色ぞうつろふ

百首歌の合 陸奥

春雨のふるにつけてもひさかたの
海辺松

嵐富松

吹き通す風のまにまに散る花の雪ぞ積もれる松浦さよ姫

百首歌の合 陸奥

春雨のふるにつけてもひさかたの
松浦の海人の

寛元二年中 民部卿家

春雨のふるにつけてもひさかたの

いつけのうあ女ん河よみてそうそうまうこそうまうこ
洞院摂政家百首地(清輔)
おとそう流のうくもる雲もすの月
洛阪院の河百首 大納言師教
あうち絡(恵)こ雨う秋のおさりするう
家集海辺河友 権中納言定方
松風の吹音すれおうち絡河友すくとてう絡ぬん(ねろイ)
従三位為家 民部卿
偏風のなうそうりよ渡鴨そひよみてそうる女人
よろうん

あうち秋うす渡代うこそ渡鴨凡すそやうんこうと
(脱)渡鴨(ん)

(ん)

偏うこのさしたむうう渡鴨おうれとえをいなり
(ん)渡鴨の河波
むこのう(を)澪(とも)もよ女雲も渡
(ん)

あうし風よ澪渡うんとそうへと
家集渡(海歌)こ雲
望うく

渡布帯元
うつうよ八十の女渡のタタうすこいろ(う)へ風てり業の
(ん)
(ん)
(ん)

文治六年女社一百首 寄木名所

杜雲よもぎこの治病と尺海をいはのうにるりぬまゝに

よこ人

名

ひなのあまふくむすおりて風をそむきたゝ

あさるたくかこのおきひゆふなみにからとゝつなこのうを

宝治二年百首

六六

きさらぎのあるそをそるそ今うら

よこ人

朝 紀伊

六六

あるよおこさの福よひろ朝のさひうるつ人

秋華

ちの治乃地ちえの海よつくれのかるとゝ

この年いくれのよの

名よあふさ三年ちりしてやりうる秋

あくしの治としのかるをそ春

かりのくろ

六三

よこ人

名

春にのさつきそ尺ゆれなさ

宝治二年百首

治二後歌民

さく滝の秋のもる涙ふりそへて
　　弘ち二年中務少輔親宗家の合
ゆふされはさくらの滝よりおつる
　　みちのく
　　陸奥
ふるしさくらの滝のあき風の
　　ふかねとも
　　人麿
　　傷被侵害滝親石中死人形也
　　人麿
ふるしさくらの滝の音ふけて
　　ふかねとも
　　人麿
やまと河のさひりこ滝なれとちえのなみの浪そうつまる
寛え四年日吉社奉納の合
　　四三位知家卿
ゆふされはをのの山風吹つれて
　　をのの山
さらしなるとよりとくあらし
　　陸奥
家居二年百首滝
　　弁内侍
ふりてなくみねのうき雲のうき波のしらゆふ
　　滝
　　従二位家隆
をくらさきみねの滝よりおつる水
　　滝
　　従二位家隆
　　寄葉杜千中

春部

民士の松つよものけみ

すけ

正三位知家

秋をみてくらす人の親ならて

攸軌朝臣

雲ゐより

家集　指使文

夕雲よみ一面くれしそのの

攸軌朝臣

みくらゐ鳴とよ

家集

春部

民士の松つよものけみ

すけ

正三位知家

秋をみてくらす人の親ならて

攸軌朝臣

雲ゐより

家集　指使文

夕雲よみ一面くれしそのの

攸軌朝臣

みくらゐ鳴とよ

家集

大宰大弐高遠

もの思ふ袖に涙の掛るかな

弘也ち之年中勢

もれ聞人そやみ〳〵ものそれ

家集　指使文

三熊野のゝ浦浜ゆふみて

家集

慶算

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

家集 さそふ

重之

討ねにめくる夜のあやしさなみ風のおと
都へとうの宿へとのそけくもかなしかりけり

家集 常陸

彰子和泉

あさましきあらし吹こそかなしけれ波せぬ宿の
家集 源氏

ふるさとをよそに一法師ふる白波

文無元年七社百首 民部卿為忠

みそぎする河原の風に月さえてうつもれ
ぬ夜の千鳥なくなり

家集 源氏

宮藤四天王院の御障子

雁

雲井より通ふ人の声聞えて秋風寒き
夜半の雁がね

家集 源氏

垂裕雅経

いつのまにうつりかはれる風の音に夏の
名残を思ひ出でつつ

家集 源氏

五月

いつしかと菖蒲ふきまよひ雨の
中に軒端の水ぞ
家集 源氏

ひろ沼の水ぐるまなるうきぬなは
永久四年百首 俊頼朝臣

知らぬ間のあやめの草の根をたえて
家集 源氏

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

[illegible] 和 [illegible] [illegible]

[illegible]

家集未 紀伊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○澳

家集 平前 晩望

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白妙のしらなみさえわたるかな

夜イ 同
春の夜の月もおぼろにかすみこめ

同

春やそもよつまそ嶋うち廻る
関院摂政家百首 治二年閏四月
霞のうちの沖や何ならん中々あやの波のうち火

遠保三年内裏歌百首 治二年閏四月
行かうさもあらの湊のうらさびて

田水
霞うち敷波の沖のあまの

治二年露
家集 拾遺
うきのうら浪さわぐなりみなと風

家集 のみとうく水
家集ふく風さえてやみなとの

治二年露
雪ふりて

同
夜の更ゆく波の沖より澄のぼる

冬十中
古来哥合
うら波のよりより恋さしそふ山ほとゝぎす

遠保三年内裏歌百首 治二年閏四月
晴ナ
春中初二首

拾遺集 摂政
霞うち敷波の沖のあまの

家集
うきのうら浪さわぐなりみなと風

家集ふく風さえてやみなとの

雪ふりて

同
夜の更ゆく波の沖より澄のぼる

冬十中

古来哥合
うら波のよりより恋さしそふ山ほとゝぎす

遠保三年内裏歌百首 治二年閏四月
晴ナ
春中初二首

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

新続古今 新続古今 新続古今

[illegible]

百首の中

中務のみこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六百七十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

沖は浪ふつのわたりそこの海くれ（誤 ふ→ま）

家集秋の部

ひろひおす玉ほこ路の濱ちとり

寛治二年百首歌

霜の色ぬれてきえつつ白妙の袖

第四句ぬれてきえつつ

江月

淺ちはのさ夜ふけぬれとすみわたる月をそ

寛治六年八月内裏歌合

源経神

むらのいはゐのわかれ（誤 ゐ→ゑ）

百首歌奉合 秋夕

ねたき衣院の御製

袂とや山のあはれをかけそふる

家集

修理亮長

鴨（誤 鳴）のわたり山のはもるもうすくこそ

秋ふかき情

赤人

門（五六）わけは浪うちぬらんとおもひてそ

六帖歌四季

中務のみこ

もる秋はさのみやはいぬ（誤 ね）

後冷泉院御製

秋ちかうなりぬる事を

寛治二年百首

ほのぼのとうちなびきたる尾花にもまづ秋風の見ゆるなりけり

同治二年百首

六月ばかりの夕暮に

もろ人に二年六月庚申秋我が門訪ふ夢の合ひたるなり

つくましのあなたにすまふ人もがなよきあしかりと問はむとを

ふるまひのもとの草のやうにもあらぬかなしさをもなぐさめむ

為令中納言

意ふ事叶はぬ世の中

つくましのもの立ちつつのうつつともなくうつつともなきよりはさめん夢の方

久安百首

つくづくと秋の雨ふる夜の第六細雨を聞

寛治二年百首に芦

第六細雨を聞

初句又新勅

あしこのの江のの芦のの葉そよそよと漫門ひとり訪ふ人

中納言

雑歌中

なにはえの芦まろびかりり鳴るなり家業秋江眺望

雑歌ふるさとの旧宅に前イ

ふるさとの江の芦のうへふりにけり我が名世に

右依勅撰

ゝの〳〵や大江のきし
よせうして雲井に
みゆるいこま山ろく

同人

故実

ゝの〳〵やたゞ有明の月ま
よみ

同下結

大納言大伴

良暹法師

秋風ぞ吹

指陣

ゝさかえの入江のあさぢあら
ひ衣

弘長元年中務卿親王家百首

指陣のこゑ

ゝさゝえの入江の葦のむら
立てあきかぜ

百首歌

をぐら山ふもとの田もの
引板

重之

ゝさゝ

ゝ

ゝ

松江鱸
張翰故事見晉
書文苑傳

秋風の吹立つ浪の白妙に
　　秋二十六人会
あさりするあまの入江に浪間より
　　左大臣
かつ〳〵のまつの秋風
　　千首会
吹くと〳〵まつの入江の夕汐に
　　百首歌の中に
よりくるものは秋の白波
　　指俊臣朝
　　左大臣
　　同
　　指俊臣朝
　　左大臣
　　指俊臣朝
　　左大臣
　　指俊臣朝
　　左大臣

[illegible]

家集 校本

元真

雑ひさ濃(こまと)物あいあ[illegible]

文永十年毎日(をひ)[illegible]

[illegible]

新古今 冊校本

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞享二年六月廿六日百首

住のえやちぐさなみもうつるなり
住吉社百首 内

すみよしとあるもふつくもなるべきをれのよわすれ草ともよめる
住のえの池のみぎはのいさごまでかぞへてぞ知る千代の数
○池
御集
川のあるあひだすべし池のあるあひだすべし
家集

久方のあまつ空なる住のえの池の水底うつる月影
文集百首花盛中
四条宮下野
春風の吹きあげたてる白波や松の枝にもかかる池水
家集
民部卿為家

新 春六三
この見ゆる行かひもすべし池のうへの春のひと日を
月

拾玉集百首
住吉社百首
信実朝臣
咲花のこずえの池の底までもうつるばかりに匂ふ春風
家集
民部卿為家

春六三
月日なし
月
ちぐさ咲く野辺の池水うつるなり
同
月日なし
月
ちぐさ咲く野辺の池水うつるなり
新
信実朝臣
ちぐさ咲く野辺の池水うつるなり
家集
民部卿為家

ちぐさ咲く野辺の池水うつるなり
永久四年百首

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

せよとて遣はしたりければ遣はすとて

[illegible]

[illegible]

その池のほとりに

白川院の御時

池のほとりの松の枝に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

新六六 ぬなそ
[illegible]の池のみさひまつもあらさぬなかれすまつ
永久三年百首
[illegible]
[illegible]
[illegible]
冬部中
[illegible]
[illegible]の池乃ひりのあかちみつ
宝治二年百首池氷
むすこそ氷とちられ春れぬの
正嘉元年[illegible]
[illegible]
[illegible]

新和五三

ふる川人うらの池りよすむ鳥

永久四年百首池

人さしも思ひおろさぬこの池よ住てうき

百首

面影のみつくしもしものこと

つれくさのおもひにまかせ

おもひくまるとすて思てとき

源重之

うつもれの池いまも

白河院御幸

月

かけるさ

うし

月

池よりもふかきは

[illegible]

六六 これなりまる

年ふるもくさのうつもれの池の

月前水

うつもれの池よりそふひくてまれ

白河院御幸柳影池

源乃俊

月

かけるさ

うし

月

池よりもふかきは

[illegible]

六六 池

うつもれの池よりそふひくてまれ

月前水

白河院御幸柳影池

源乃俊

月

かけるさ

うし

月

池よりもふかきは

[illegible]

源重之

袋草紙を考ふるに此時兵衛佐なり

顕仲此時兵衛佐なり

うつもれの池

伊勢

伊勢なる

哀池水なきまゝに

昔ゝ

昔ゝ

昔ゝ

四月まつころの池のもとにて

四葉花 待つの中

散まがふ花の袖をそてふれば

百首うた

みな月あまの衣ほすてふ

冬部中 たかみ

いつるやいその池にて

家集 高みの中

さゝ波のよるの大池のねぬ縄の

浪二信濃

浪のりそふ

寄浪祝

寄門松

家集 松の未開

寄月祝

家集 月の未開

六條院宣旨

和泉式部

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4　　ガラス使用

みそうづとつつさの池の蓮葉を
歌集 山風
人のいさまれなるのすさまぬ
はなのそのおいひ給ふ
も知物ぬまるひの池
て世そ守とてこころ
歌集 百首 秋
まろこきのおの井の池
ふらしの池よ月をみて

入唐の河乃寺
家集流布本元
神ひら淀の池よ月
歌集
年ことにもみ引ま葛葉
歌ふ知情中
あらそたのむのこころにて
遠考八年百首の会
歌こそ文月ねなそ
成尋法師母
成尋法師 とある
歌集
古今六帖
遠考八年百首の会 未勘
万尋中納言
歌集
古今六帖
歌集
万尋中納言

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

雪ふれば（ま）
ふけゆくままの池よりも
浪やそふらん
氷のさえまさるらん

権中納言俊忠の百首歌（ナシイ）
なにはえのこも
なみこえて
あやめさくなる
池のうきね
かな

為忠三（ナシイ）
あやめ草（よまず）
ひくてのうきねの池とのひこそ
ながれ
ざるらめ

源重之
ふるさとの
池のすみこし
月よりも
あやめぞ
かげは
まさりける

大和
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

源重之
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

遠保四年内裏歌合（山城）
菅原孝標
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

皇太后宮大夫俊成（不審）
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

大和物語（ハ大和）
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

三（奥 河 陸中）
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

文永二年白河殿百首（上園）
皇后宮（非）
ふるさとの
池のみぎはの
あやめ草
ねをたえずして
ひくてのうきね
の池とのひこそ
ながれざるらめ

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

真野池ハ摂津真野萱原ハ陸奥なり同名ありてまぎらふ

百九

まの池の小菅を笠(かさ)になぬひてん人のきそ(着と)ねらしも

弘安元年の百首

百

雨の池(ケ)水しぬれハ菅(すげ)笠をかたふけてゆく人のおほきに

弘安元年の百首

百一

まの野の池のつゝみのやなぎかけ風(さえ吹)にしたれて池の汀も氷つゝめり

弘安元年の百首

百二

永安元年三月童家会池を主蕙

百三

あをやきのかけ見る池のうきまろ(ママ)

良一法師

百四

遠保三年九月の百首 大和

汲三位紀字

百五

夜のまもすき田の池のうきまろ(ママ)

員安二年六月名所百首

百六

夢ぢかとおどろかれぬる菖蒲ふく

諏訪の院の御百首 寺岡

那仲朝臣

百七

蓮葉にふくる雨の玉ぬきて

色地

ちぎりをかばや

百八

第(うけ)六

第(うけ)六の池のつゝみにくさむらの

てヽ

ふかくもあるか

とゝ

ちぐさの池ハすゝむ月日をこゝろ

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

池上曉月　　按中納言

住吉のきしの姫松いく代かは
ふりぬる袖に春風のふく

西行二百首　　雜三

その池のおもの鴨のひとつゐも
和哥一ぬしの谷辰池哉

甲○　秋ノ

その池のみぎはよもぎかあらぬ
池松風を　雨　壽圖

法二位家

甲○　秋風の吹くれぬる夜半のそら
壽圖

六三　なるの

霧すゐあさの池のあるれやそこも
うき人もうすし

伊勢大輔

深ちくさ草すさの池のみぎはへの
澤みとりみそまさるへ

中務卿のみこ

あさの池のみくまをなみ人もとも
二条太皇太后宮大輔

あさの池のみくまをなみ人もとも
遠き八年百首哥合　寛治二四大貳

住吉のきしの姫松いく代かは
ふりぬる袖に春風のふく

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

和名
阿波名方西郡
櫻間佐久良方

下文誤出

一〇 六三 又六帙

家集 親なき後

一〇

郡名知 山城

一〇

大和物語 毛詞天皇 万 みかど

遠保三年内大臣家百首池菖蒲

大納言家

一〇 六二

上文已出 大てまた

郡名知 山城

一〇

郡名知 山城

甲〇

三百六十首中 拾遺

家集

ひさしへさゝは絶ゆるよかその
言葉すくなし
ミくのこゝろしのくしの池いひ
水無池あ
ありつゝ見つゝの池は氷かそ
鄙第和哥集
みつまくの池のあるしらす
みくまの池
永久四年百首
いにしへひさまてそうつもれる
左京大夫顕
みやまとあるそみまさきの
伊勢或山城
ゆきゝ坂ひのみくの池のあやうさよ
康平四年三月祐子内親王家哥合
みちのくの池は幸ありへき
和泉
ミくまのみりそありつゝ池の
山城
美作

みそらをきよくすめる池は秋こそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

閑けみさひうき舟よりさしてる月は
秋風雲を千百首
ひろ沢晩ちを

夏々西家

かうや山の松のさとはそもひろ沢の池
貞応二年十歌合百首
同
ひろ沢やあしのかすをも白めてはなれ出る池の月影
古池名所

庭沢や住なん人のおとそする池の鴨よるく池も
関路ものて下くる河舟ろく数、行合風情
よそ人忍和

秋風の一ふき宮のいけもみすうちよりて風のこけやしん
歌名所 古伝、名所
同
岩面のひかりの池るる山のかけもとどろくよやまの池ぬなえ
名所六 鳥のさわく深山の池るんなみつ六 そこ
歌名所
池ともなきすみかの池のもるさへ舟をうかべてこぎかへるらん
三百六十番
あら玉や年のうちにもる池の花ろうかんみるかうかんに
承安四年三月重家朝臣の合池をこそ
勝命法師

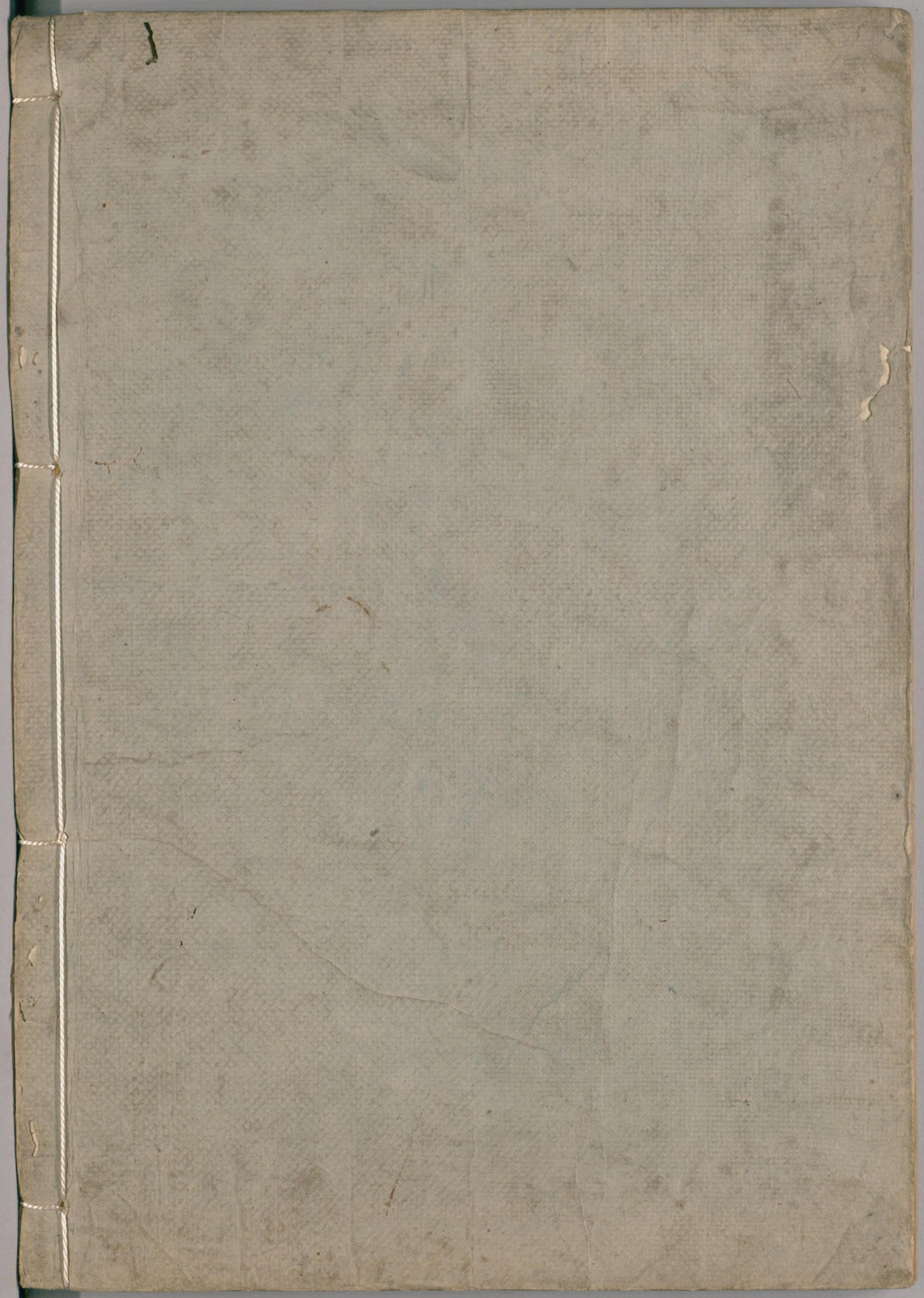
六百十二首
長哥十六首　旋頭歌二首

837
36
4

あそうむするさの池乃汀ってそ
隠り院乃何百首
をそ宮まねびすうあ〳〵のうち
千又百首まそ〳〵奇合
そうつ千するさの池とそうよするさ
思ふ人乃桜歌百首池乃柳
さ寝娘のするさの池のあさねかみ
百首奇城田氣乃異状
萩乃露

そうよするさ海の池るれいひうろ時うるれ
但馬私乃百首也奇
あつさをい私のあしよあさう歌
くれの私但乃をう〳〵池よ玉て
よ月夜乃但馬のいより代れ

泊清



国立国会図書館　　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用